

別冊

おいしいものがたり

～資料館資料編～ ■「大石田町と雛人形と」より

現在資料館では企画展「大石田町と雛人形と」を開催中です。大石田に残る享保雛や古今雛は、制作年代や地域はもちろん姿かたちや表情もバリエーションに富んでいますが、その中でも今回はひと際大きな享保雛をご紹介します。

展示室正面に鎮座する一対の享保雛は、宝冠や烏帽子も含めると60cmにも達する大型の雛人形です。装束に施された色とりどりの瑞雲や龍、宝珠などの吉祥文様は人形のサイズに比例して見ごたえがあり、大きいだけにその精緻さが際立ちます。顔の作り込みも端正でゆるみが無く、堂々とした表情を湛えています。女雛の袖から裾にかけての稜線が特に美しく、打掛の下に重ねた着物にも錦が用いられて、正に豪華絢爛といった趣です。

座姿の雛が登場した江戸初期から中期にかけての雛人形は小ぶりで、衣装も素朴なものでした。しかし元禄時代頃になると、経済力をつけた町人たちの間でより大きく豪華なものが流行するようになっていきます。幕府は江戸時代を通じて度々儉約令を出していますが、元禄17年(1704)にはじめて雛人形がその対象になり、さらに享保6年(1721)には八寸(24cm)を超える大きさや、高価な生地を使った人形の販売を禁止しました。常識的に考えれば、このお触れ以降は八寸以上の雛人形は作られなかったこととなります。しかし実際は一尺を超える大きさで、金欄緞子・紅花染めの生地を用いるなど贅を凝らした人形が数多く残っていることから、当時はより多くの「禁制品」が出回っていたと考えられます。

実は享保6年の奢侈禁止令以降、享保20年(1735)、宝暦9年(1759)、寛政元年(1789)にも同じ内容の禁令が発せられています。お触れが出されれば一時的に守られるものの、時が経てば大きく華やかな人形が復権し、再び(再三)禁じる、の繰り返しだったのでしょう。特に寛政の改革で行われた取り締まりは苛烈で、多くの雛問屋が摘発された記録が残っています。しかしそもそも対象となる人形を製造・販売しなければこのような記録は残らないはずで、どれほど禁令が厳しいものであっても豪華な雛人形が売買され続けたことを裏付けています。またそれは豪華で煌びやかな雛人形への羨望や憧れの強さを表しているともいえるでしょう。

今回ご紹介している享保雛も、雛人形に対する願望を具現化したような逸品であり、規制をかいくぐって大石田までもたらされた貴重な雛人形です。中でも二尺にも及ぶ大きさのものは珍しく、この機会に是非ご覧いただきたいと思います。



新町発足70周年記念企画展「大石田町と雛人形と」は4月3日(金)まで
資料館内聴禽書屋にて3月29日(日)は和琴演奏会、
4月3日(金)は抹茶席が開催されます



大石田町公式アカウント開設

LINEはじめました

防災情報や各種行政情報を
受け取ることができます。

友だち登録を
お願いします！

登録方法

右の二次元コードを読み
取って友だちに追加して
ください。



大石田町公式LINE

防災放送の内容を

電話で確認できます

防災放送が聞き取りにくい、放送内容
を確認したい等のご意見をいただき、町
では防災放送確認ダイヤルサービスを開
始しました。

このダイヤルは定時(夕方6時のメロ
ディ等)放送を含め、直近の放送から8時
間以内の内容を順次聞くことができます。

確認ダイヤル: 0237-48-8444

総務課総務グループ TEL35-2111 (内線218)

町の人口 令和8年3月1日現在

世帯数	2,180戸	(-5)
総人口	5,726人	(-10)
男	2,862人	(-7)
女	2,864人	(-3)

(2月中の異動)

出生	0人	転入	3人
死亡	9人	転出	4人

※この人数は外国人も含めたものです。